



総会の挨拶で積極的な活動を呼び掛ける山崎善也会長
=9月10日、京都市内のホテル

新会長に山崎・綾部市長

今後の活動にご意見を！

本会は9月10日、京都市内のホテルで平成22年度定期総会を開きました。総会では、四方八洲男会長の綾部市長退任に伴い、2月に同市長に就任した山崎善也氏を本会の新会長とすることを承認。本年度は、本会の加盟自治体へのアンケートを行うことも決めました。

本会は9月10日、京都市内のホテルで平成22年度定期総会を開きました。総会では、四方八洲男会長の綾部市長退任に伴い、2月に同市長に就任した山崎善也氏を本会の新会長とすることを承認。本年度は、本会の加盟自治体へのアンケートを行うことも決めました。

活性化へアンケート

議事では平成21年度の事業報告と決算、22年度の事業計画と予算、山崎会長代行を新会長とすることをそれぞれ承認。事業計画では、本会の活性化に向け、加盟自治体にアンケートを行うことも決めました。

アンケートは、本会の加盟自治体が減少するという状況

のできる事業について、この機会に率直なご意見をお寄せください。

未加盟自治体にも補助

総会では、中東和平プロジェクトを実施する自治体への補助金500万円を、未加盟自治体にも支出することを承認しました。この補助は従来、加盟自治体が実施する場合に限定。同プロジェクトの趣旨をより広めるため、加盟自治

りを呼び掛けました。

22年度定期総会

いまひとつの世界を

世界連邦宣言

自治体協新聞

発行
世界連邦宣言自治体
全 国 協 議 会
(事務局=綾部市)
〒623-8501綾部市若竹町8-1
TEL(0773)42-3280
FAX(0773)42-4406

住民を巻き込む活動を

総会には、来賓を含め32人が出席。四方八洲男会長の綾部市長退任に伴い、2月から本会の会長代行を務めていた山崎善也・同市長が冒頭で「加盟自治体の皆さんに本会の活動の在り方を問い合わせる」ということを承認。本年度は、本会の加盟自治体へのアンケートを行うことを決めました。

下で、今後の活動の在り方や、中東和平プロジェクトについての意向を聞く内容です。加盟自治体は、かつては250を超えていましたが、平成の大合併などにより、9月末現在まで76となっています。これまで予算規模も縮小。活動も停滞してしまいます。

私たち加盟自治体は、住民の皆さんの賛同を得て宣言を行い、その崇高な理念に基づいて活動を展開してきたという自負があります。危機的な状況にある今こそ、進むべき方向を見定めながら地道な努力を続けていくことが肝要です。加盟自治体の皆さんのが、無理のない範囲で取り組むことのできる事業について、この機会に率直なご意見をお寄せください。



7月の中東和平プロジェクトin綾部を写真で紹介する岡垣事務局長

議事終了後、7月末に中東和平プロジェクトを実施した綾部市実行委員会の事務局長、岡垣美樹・市秘書広報課長がプロジェクトの結果を報告しました。岡垣事務局長は、今回特徴を①双方の参加者が同じ飛行機で同時出国・帰国できたこと②市外日程を簡素化したこと③ホームステイの時間を大切にしたこと――と説明。その上で「市外日程をさらに簡素化し、本来の目的であるホームステイなどによる交流プログラムを中心に入れ、補助金500万円の範囲内で実施することも可能」とし、さらなる取り組みの広がりを呼び掛けました。

**中東和平プロジェクト
in 綾部**

イスラエル パレスチナ 子ども10人が交流



市民大会でシャローム＆サラームを合唱する参加者=7月25日、綾部市内のホテル



地元の高校生と太鼓で交流した後、笑顔を見せる参加者たち

イスラエルとパレスチナの紛争で親族を亡くした子どもを招き、開催市の市民と一緒に交流する「中東和平プロジェクト」が7月23日から5日間、京都府綾部市を中心に行われました。子どもたちはホームステイや文化体験で行動と共にしながら、平和は共通の願いであり、実現には対話が必要であることを認識しました。

1滴の水を大河に――

今回は、それぞれ5人の高校生らが来日しました。23日は歓迎集会の後、子どもたちは2人1組となり、市内的一般家庭でホームステイ。翌24日は、寺の散策や手書き和紙の体験などで、ホストファミリーとも交流を深めました。

25日には、地元の高校生と太鼓で交流した後、記念植樹と市民大会に出席。大会にはニシム・ベンシリット駐日イスラエル大使、イヤッド・アルヒンディ駐日パレスチナ

は「違った文化で育つても、仲良く接してみれば、人への気遣いや年長者への振る舞いは同じであることに気が付いた」。イスラエルのネタネル・ゾニック・ゴランさん（16）は「パレスチナの友人と過ごしてみると、紛争を望んでいるわけではないことが分かった。我々の世代なら、平和を実現できるかもしれない」と

継続に大きな意義

綾部市で始まった同プロジェクトはこれまでに6自治体

で実施され、今年で7回目。市制施行と世界連邦都市宣言が60周年を迎えた綾部市で再度、開催されました。

今日は、それぞれ5人の高校生らが来日しました。23日は歓迎集会の後、子どもたちは2人1組となり、市内的一般家庭でホームステイ。翌24日は、寺の散策や手書き和紙の体験などで、ホストファミリーとも交流を深めました。

25日には、地元の高校生と太鼓で交流した後、記念植樹と市民大会に出席。大会にはニシム・ベンシリット駐日イスラエル大使、イヤッド・アルヒンディ駐日パレスチナ

来賓の挨拶の後、子どもたちは紛争で親族を亡くしたつらい経験談を交えながら一言ずつスピーチ。パレスチナのララ・アルナセルさん（19）は「違った文化で育つても、仲良く接してみれば、人への気遣いや年長者への振る舞いは同じであることに気が付いた」。イスラエルのネタネル・ゾニック・ゴランさん（16）は「パレスチナの友人と過ごしてみると、紛争を望んでいるわけではないことが分かった。我々の世代なら、平和を実現できるかもしれない」と

常駐総代表部代理大使をはじめ、綾部市民ら合わせて約350人が参加しました。

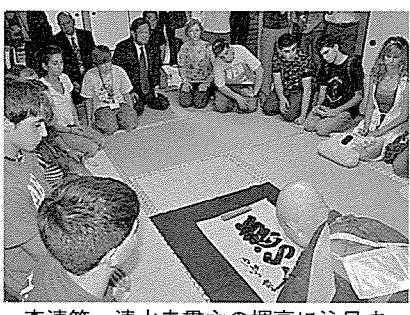
大会の冒頭、実行委員長の山崎善也市長は「子どもたちは、ホームステイを通して、歩むべき方向を確認し合つてくれたはず。和平が実現するまで、ささやかではあるが確実に“平和の種”をまき続けることに意義がある。1滴の水を大河に――。私たちの思いが世界中に広がることを願う」と挨拶しました。

平和を実現できるかも・・・

来賓の挨拶の後、子どもたちは紛争で親族を亡くしたつらい経験談を交えながら一言ずつスピーチ。パレスチナのララ・アルナセルさん（19）は「違った文化で育つても、仲良く接してみれば、人への気遣いや年長者への振る舞いは同じであることに気が付いた」。イスラエルのネタネル・ゾニック・ゴランさん（16）は「パレスチナの友人と過ごしてみると、紛争を望んでいるわけではないことが分かった。我々の世代なら、平和を

それぞれ思いを述べました。最後に、平成15年の綾部プロジェクトで作られた曲「シャローム＆サラーム」（ヘブライ語とアラビア語でそれを「平和」を意味）を全員で合唱して閉会しました。

清水寺貫主が激励



森清範・清水寺貫主の揮毫に注目する参加者たち=7月26日、清水寺

翌26日には京都市東山区の清水寺を訪問しました。森清範貫主は玄関で子どもたちを出迎えた後、館内の和室へ移動。相手を思いやる心を持つて互いに接することを意味する「慈心相向」と揮毫しました。森貫主は「和」と記した色紙を子どもたちにも手渡し、慈心相向の意味を説明しながら「それぞれの立場で平和に貢献されることを願っています」と激励しました。